

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二十第

行發日一月三年十正大

論叢

地方所得稅と他地方交渉問題……………法學博士 神戸 正雄
 唯物史觀公式中の一句に就て……………法學博士 河上 肇
 獨逸流通稅の變革……………法學博士 小川郷太郎

時論

取引所改善の要點……………法學博士 戸田 海市
 注意すべき小作人問題……………法學博士 河田 嗣郎

說苑

生計費研究法を論ず……………法學博士 森本 厚吉
 所得分配統計……………法學士 汐見 三郎

雜錄

プリーフェアの統計要覽……………法學博士 財部 靜治
 ビュツヒャー文庫……………法學博士 小川郷太郎
 自由貨幣運動……………法學博士 河田 嗣郎

雜誌

Playfairの統計要覽

財部 靜 治

第十八世紀の末、統計數を幾何圖形により表章する方法を始めし、ギーせん大學經濟學統計學教授 Crome を前後して、英國に於てその風に倣ひ、種々の著作物を殘せる、代表的學者として、William Playfair (一七五九—一八二三)を生みしは、統計學史上著明なる事實なり、(拙著「統計學」の研究一七頁四〇頁參照)吾人は近日氏の「著書「統計要覽」The Statistical Breviary; shewing, on a Principle entirely New, the Resources of every State and Kingdom in Europe; illustrated with Stained Capper-Plate Charts, representing the Physical Powers of each Distinct Nation with ease and perspicuity, by William Playfair, to which is added a similar exhibition

第十二卷 (第三號 一四四) 四八八

of the ruling powers of Hindoostan, 1786) の一八〇一年版に接手せるを機會とし、之に就き一言せんと欲するも、その以前に Edgeworth が、バルグレーヴの字書中、本著者につき説ける所を引かんか。

氏は一七八五年匿名により、The Increase of Manufactures, Commerce, and Finance, with the Extension of Civil Liberty proposed in Regulations for the Interest of Money. を刊行して、各場合の事情に相應せる、一金利により、金額を貸付くるために、一基金を興すの案を立て、次つて一七八六年には、The Commercial and Political Atlas representing by Means of Stained Copper-Plate Charts, the Exports, Imports, and General Trade of England; the National Debt, and other Public Accounts; with Observations and Remarks. を著し、(次いでその一八七九年版及一八〇一年版には、新たな材料を加へ、「統計要覽」中の説明によつて、本著は大に成功し、一七八八年には佛譯を見たリ、) 經濟財政統計に、圖表法を應用せるを以て、著

明となれり、その緒言中右の方法に就き、説ける所によるに、「二年次に海軍費として、支出せる金額一定ギニーたり、そのギニー額を一大表上に、一直線を引きて示し、次年に支出せる額を、他の一直線にて示し、爾後多年に亘り、同じ方法を續け、その間諸線は互に接觸せるか如く、描けりと想へ、是等の諸線はギニー額の多少に應じて、その長短を異にすべく、又相寄りて一圖形をなし、かくてその諸大さは、確實に諸金額に符合せん」この方法によらんか、「數字表によらは、記憶に銘せしむる迄に、丸一日を費ゆへき多くの報告も、數分にて受入るゝを得ん」同様に一水平線上の、諸點に立てられたる、數多の縦線により、各期間の輸出額及輸入額を示し、かくて兩者の相違數多を連ねて、副員不同なる、一の流れをなさしむることゝせんか、そは輸出入の差額を、表はすことゝならんごせり、而して英佛貿易に關する氏の觀察は、國際貿易に於ける、兩國相互の利害關係に關する、一觀察眼として正しきことを、證據立てし

より、Playfairの右の觀念を、特に重用せるは、注目すべき所なり。

次に For the Use of the Enemies of England; a Real Statement of the Finances and Resources of Great Britain; illustrated by Two Copper-Plate Charts. 1796 はその著者名に、「線算術の發明者」inventor of lineal Arithmetic たる附言を加へしか、その著書中には、貨幣の價值低落に關する、多少の長評論を含み、「貨幣かその價值を墮すこと、公債額の増大より迅速ならんか、國民の負擔は、名義上は増しても、事實上は輕減せられん」とし、又その附録中には、指數に關しても、幼稚なる觀念を有せることを、窺はしむるものあり。又著書 An Inquiry of the Permanent Causes of the Decline and Fall of Powerful and Wealthy Nations, illustrated by four Engraved Charts..... Designed to show how the Prosperity of the British Empire may be prolonged. 1805 にありては、その方法を古代史に應用せんと號し、又その叙言中、右の新方法の觀念を養へる

につきては、數學家自然科學者たりし、兄 John 教授 (一七四八一八一九九年) に負ふ所あるを述べたり。同年氏は又「諸國民の富」の一版本として、多少の鋭き評論を、含めるものを出したり、假令は「一人か租税として、納むる所多きに從ひ (一家屋の) 地代として拂ひ得へき所は、愈々少からん」とせる、A. Smith の學說に對する評論、「特殊の租税は、特殊數貨物の代價中に含まれ、その間時としては四度も五度も、繰返され又積み重ねらる」とし、A. Smith により是認されし、Sir Matthew Decker の觀想に對する評論は然り、而して是等評論は、Smith の時代を承けたる、當時の財政上の出來事に關し、又佛國經濟學天道學派に關する、増補的諸章を成す、Playfair は統計學者として、多少の獨創を示せりと同様、經濟學者として多少の鋭才を示せりと、右は Edgeworth の所説なるか、經濟學者としての Playfair に就きては兎も角、その統計學史上に遺せる功績は、没すへきに非ず、素よりその當時大陸一部の統計學者により、輕現された

の事實は存す、而も亦晩年の著 A Letter on our Agricultural Distresses, their Causes and Remedies; accompanied with Tables and Copper-Plate Charts, Shewing and Comparing the Prices of Wheat, Bread, and Labour, from 1565 to 1821. Addressed to the Lords and Commons. 中、氏自身は説き得たり、「予は今解説のため、約四十年前に發明せる方法を採用し、諸物價の進歩及その大小比較を、早見圖表により示すこととせり、この方法たる大陸に於て、多大の賞讃を博うせる所にして、又男爵 Humboldt は之を以て、數量比較を心に銘記せしむるの、最良法なりと言へり、この大哲學者及旅行家による、この無條件なる讚辭は、我が重大問題の取扱上、同じ解説方法を採用するの、理由たらしむるに足れりと想ふ」と。(拙著「社會統計論綱」三八五頁以下參照)

前記統計要覽叙言中、説ける所今尙興味を喚起するもの多し、その一二を引かんか、統計と地理及歴史との關係につき、説いて曰く

地理は統計の一部門に過ぎず、而して統計の知識は、諸國民の歴史、并にその相互の國勢比較を、明解するために必要なり、古代史にありては素より、否現代に至る迄も、統計事項に關し、授けらるべき記録の如く、さ迄不完全なるものなし、假令は古代史家、その他の諸著者は、徵募されたる大軍勢、仕遂けられたる大事功を説くも、財政、諸方法及諸方便につきては、普通に沈黙なり、此種の知識も重要なことに付、人は近年に至りて漸やく、充分なる注意を、拂ひ初むること、なれり、由來此注意を缺きしかために、古代の世界事情と、その現況との比較を遂ぐるに當り、之を明かにせは極めて有用なるべき事柄にして、全く不明に葬らるゝもの夥し

と。その論旨を敷衍して、別に又説ける所、頗る痛快なり、曰く

虚飾心は充たされず、利益興振されざる所、その知識は普通に不問に付せらる、約二千

年前 Canoe の合戦に於ける、戦死者の指より、取去られし指輪の幾ブッシュェルは記録せられ、Agincourt 及 Cussy 合戦に於ける、兩軍師卒の數につきても亦然りと雖も、現時に於ける英國産穀物の幾ブッシュェル、英國の現人口は、明かにせらるゝなし、(英國最初のセンサスか、本書版行と同年なるを注意すへし) 時は恰も國內住民の用に充つべき、食料不足せずや否やの至大問題、議論さるゝ際なるに尙然り

と。而して統計を精確完全ならしむるには、官廳統計の組織必要なるを論じて曰く

全國的にも地方的にも、報告を蒐むることを、慣例の常務となすは必要なり、されど事務の首脳部を、占むる人々のため、直接にその利益を増さしむることなかるべき、諸材料蒐集のため、多數の人を雇ふこと、しても、虚榮心は追従さるゝことなかるべきを以て、その事務は永久に、之に不適任なる數個人の心掛けに、委ね去られんとす

るの虞れあり

と、我國中央諸官廳の統計に就きては兎も角とし、往々にしてその行政の首腦部に、社會事業への虛榮心なしとはなし難く、而してその住民に菜色あるも、その貧困虛弱多病に關係ある、諸材料の調へは、行届けりとはなし兼ねるか如き、府縣諸大都市の行政政府へ對しては、一片の苦言となし得へきに非ずや、唯東京市にありては、今やその統計行政に主力を、注かんとすと報せられ、又その兆もほのぼのと見え初めしあり、進運空しからず、數年を假して、事蹟擧るを得は、異國の Playfair も亦地下に瞑するを得んか。

Playfair は本著中、歐洲諸國及印度諸州の、國勢に關する統計を擧ぐると共に、その比較に便ならしめんかために、五圖表を挿みたり、就中印度に關する二表と、歐洲諸國首府の人口比較たる、一圓圖表とを除けば、その一は佛蘭西革命以前に於ける、歐洲諸國々勢比較に關し、他の一つは一八〇一年の、Luneville 構和條約に

より、變化を豫期されし、歐洲諸國々勢比較に關す、就中最も興味あるは、革命前の狀況を示せるものにあり、その技巧によるに、先づ諸國領土の廣狹を、圓の大小によりて示し、且つ之を大小順に横に並列せしめ、次にその直徑を縫ひて、引ける一水平線と、各圓周との二切點に各二垂直線を立つることとし、その各左線を赤色として、各別にその人口を示さしむることとし、各右線を黄色として、各別にその歳入を示さしめ、別に又圓内の二色別として、大海軍國と陸による強國との別を示し、圓周の上に數字を擧げて、その人口密度を示すこととし、一面兩垂直線を一線にて繋ぎ、その左右何れの線高きかにより、人口との釣合上、國民の負擔高しとすへきや否やを、示さんとしたり、之につき氏は説いて曰く

面積、人口及歳入は、吾人か好奇心又は利害に、驅らるゝと否とを問はず、統計的研究の一般尺度上、注意すべき三大事物なり、是等三事物は國力の至要基本として、精確

に測られ、又は數學的確度を以て、示され得べき唯一のものなるを以て、之を一覽として示せり、政體并に國民の心的諸性質もその國を偉大ならしむるに、預りて大に力あるべきも、そは記述によりてのみ、人に傳へ得べく、計數に示さるゝを得ず、否精確なる叙説さへ、なし兼ねべき所なりと、同じ論旨は叙言中にも、他の語句にて説かれたり、曰く

國土の廣狹は、大に人口の多少を左右すべく、又そは國力の根元なりと雖も、國土面積も人口も、之に歳入を伴はしめずんば、足れりとせず、假令は波蘭は宏大にして、人口に富み、土地肥沃にして生産的たり、隣接諸王國の何れよりも、遙かに自由のため熱烈なる、民族により住まるゝも、恰もその隣國權力により、屈伏されたり、結論は外ならず、歳入の不足は、その滅落の原因なりと、すべきこと之なり、人或は論せん、波蘭を滅落せしめたるものは、歳入の

不足にあらずして、一致を缺けるにありと、されど之に答へて論し得へし、歳入の不足は、その他幾多の欠缺同様、一致の欠缺を惹起せりと

今日諸國々勢の現況を、審かに詳察せんとするの趣旨よりせば、粗大の嫌は免かれ兼ねへしと雖も、比較便覽に供せんとするの、一目的は達したるものと言ふべく、列國々勢に關する、綜合比較の知識と、その知識を傳ふるの方法とに、卓越せりとなし兼ねる、邦人としては之に學ふべき所、尠からざるを想はずんば非ず、別に又その史的價値に至りては、素より没却すべきに非ず、特に印度に關する材料に就き、之を想ふこと深し。